

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (幼) (2単位)	3. 科目番号	SJMP2141
2. 授業担当教員	武本 大志		
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作Ⅰの単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。 実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、保育者・指導者として保育実践の場に還元することのできる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を探求するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。		
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」とらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	i. 毎時の実習において制作する作品を提出課題とする。 ii. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 iii. 自己の振り返りとして、授業における取り組みをスケッチブックにまとめることを課題とする。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】【参考書】 授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時に指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がついたか。(学習目標1・3) 2. 子どもの造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。(学習目標2・4) 3. 子どもの豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。(学習目標5) ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の20% 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の30% 3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等) 総合点の30% 4. 課題 (作品発表、レポート等) 総合点の20%		
12. 受講生へのメッセージ	①指導者の資格を得るという自覚を持ち、積極的に授業に参加すること。 ②実技を主とした授業展開のため欠席すると授業についてこれられない可能性があります。やむを得ない理由がない限り休まないこと。 ③使用する道具や自分の作品を大切にすること。 ④多くの体験を積み、広い視野を持つこと。 以上のことを意識し、自身のために有意義な時間にしてください。		
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (研究室の前に時間割表を掲示)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 子どもの造形表現への理解について	事前学習	絵画表現や紙工作など、図画工作Ⅰでの造形活動を振り返り、その達成度を考えるとともに図画工作Ⅱにおける自分自身の目標を設定する。
		事後学習	子どもの描いた絵画に関して、ディスカッションの前後における自身の考えをまとめる。
第2回	◇ 造形に関わる素材・道具・表現についての研究Ⅰ 技法の復習と自己課題の設定	事前学習	図画工作Ⅰにおいて習得した絵画技法 (デカルコマニー・フィンガーペインティング・にじみ絵・パチック・スクラッチ・スパッタリング・ドリップング・スタンピング・フロタージュ・コラージュ等) の復習をする。
		事後学習	自身で題材を設定する自己課題について、制作の道筋を明確にし、構想をまとめる。作品をスケッチブックにまとめる。
第3回	◇ 型抜き版画による表現Ⅰ 構想・下描き・型紙の制作	事前学習	型抜き版画による作品制作に向けて、モチーフとなる動植物に関する資料を収集する。その上でアイデアデッサンを描く。
		事後学習	型抜き版画の特徴をプリントにまとめ、モチーフのデフォルメについて考えをまとめる。作品をスケッチブックにまとめる。

第4回	◇ 型抜き版画による表現 II スクリーン印刷・作品の相互鑑賞	事前学習	スクリーン印刷に向けて、構図や色構成についてイメージをかためる。
		事後学習	型抜き版画による制作活動を振り返り、自己評価をまとめる。また、シルクスクリーンなど、関連する版画技法について調べる。作品をスケッチブックにまとめる。
第5回	◇ 張り子による造形 I 作品構想・張り子制作	事前学習	張り子技法の制作の実例を調べる。風船や空き容器を心材とした張り子制作に向けて、モチーフに関する資料と材料を収集する。
		事後学習	張り子技法による制作活動を振り返り、風船を心材とした場合の展開を考える。作品をスケッチブックにまとめる。
第6回	◇ 張り子による造形 II 着色と組み立て・作品の相互鑑賞	事前学習	前回制作した作品について、装飾するために必要な資料を収集する。作品を相互に鑑賞するにあたって、コンセプトをまとめる。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことをプリントに記す。作品をスケッチブックにまとめる。
第7回	◇ 身近にある材料を用いたおもちゃ制作 I 作品構想・アイデアスケッチ	事前学習	身近にある材料を用いたおもちゃ制作に関して、資料を収集する。実際に身近にある素材を集め、造形材料となる可能性を探る。
		事後学習	ディスカッションによって得られた制作の構想をアイデアスケッチとともにまとめる。実践的な制作の場において、子どもにより伝わりやすい表現を意識しながら模擬授業の準備を行う。
第8回	◇ 身近にある材料を用いたおもちゃ制作 II 作品の試作と発表準備	事前学習	制作の構想をもとに、教材準備について考える。実際に模擬授業における制作物を試作する。
		事後学習	それぞれが持ち寄った試作を踏まえ、導入・展開・まとめといった模擬授業の具体的な中身についてグループで考えをまとめる。
第9回	◇ 身近にある材料を用いたおもちゃ制作 III 発表と相互鑑賞	事前学習	グループ毎に発表の準備とリハーサルを行う。
		事後学習	模擬授業形式の発表について、振り返りをプリントにまとめる。また、鑑賞者の視点において印象に残った発表を取り上げ、考えたこと・感じたことをプリントに記す。作品をスケッチブックにまとめる。
第10回	◇ 造形に関わる素材・道具・表現についての研究 II 色・形・触感について・自己課題の制作	事前学習	それぞれの制作計画に従って、必要となる材料を収集する。まとめた構想についてアイデアスケッチを描く。
		事後学習	制作活動を振り返り、自身の作品における色や形、触感といった造形要素について考える。作品をスケッチブックにまとめる。
第11回	◇ 造形に関わる素材・道具・表現についての研究 III 自己課題の制作・作品の相互鑑賞	事前学習	自己課題について、仕上げていくイメージを持つ。作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことをプリントに記す。作品をスケッチブックにまとめる。
第12回	◇ まとめ制作・発表 I 作品構想・試作	事前学習	まとめ制作・発表に向けて、課題プリントにアイデアをまとめる。ストーリーやキャラクターの構想を練り、モチーフに関する資料を収集する。
		事後学習	各制作物の基本的構造を復習し、アイデアデザインの制作を進める。作品をスケッチブックにまとめる。

第13回	◇ まとめの制作・発表 II ページの作成・内容を描く	事前学習	アイデアデッサンをもとに、表現に適した技法について考え、制作に必要な材料を用意する。
		事後学習	作家「レオ・レオニ」に関するプリントをまとめる。
第14回	◇ まとめの制作・発表 III 表紙の作成・組み立て	事前学習	手作り絵本やパネルシアターの作品制作に関して、彩色や仕掛けなどの工夫についてイメージを膨らませ、全体像の構想をまとめる。
		事後学習	『えほん 子どものための500冊』を参考に、興味を持った作家・作品について調べ、プリントにまとめる。
第15回	◇ まとめの制作・発表 IV まとめ・作品発表と講評	事前学習	作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。自身の作品の魅力をより相手に伝える工夫を考える。
		事後学習	相互に鑑賞を行って見て、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことをプリントに記す。図画工作IIの制作活動を振り返り、スケッチブック提出に向けて作品とプリントをまとめる。